

8:16 主はモーセに仰せられた。「アロンに言え。あなたの杖を差し伸ばして、地のちりを打て。そうすれば、それはエジプトの全土で、ぶよとなろう。」

8:17 そこで彼らはそのように行なった。アロンは手を差し伸ばして、杖で地のちりを打った。すると、ぶよは人や獣についた。地のちりはみな、エジプト全土で、ぶよとなった。

8:18 呪法師たちもぶよを出そうと、彼らの秘術を使って同じようにしたが、できなかった。ぶよは人や獣についた。

8:19 そこで、呪法師たちはパロに、「これは神の指です。」と言った。しかしパロの心はかたくなになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主の言われたとおりである。

8:20 主はモーセに仰せられた。「あしたの朝早く、パロの前に出よ。見よ。彼は水のところに出来来る。彼にこう言え。主はこう仰せられます。『わたしの民を行かせ、彼らをわたしに仕えさせよ。』」

8:21 もしもあなたがわたしの民を行かせないなら、さあ、わたしは、あぶの群れを、あなたとあなたの家臣とあなたの民の中に、またあなたの家の中に放つ。エジプトの家々も、彼らがいる土地も、あぶの群れで満ちる。

8:22 わたしはその日、わたしの民がとどまっているゴシェンの地を特別に扱い、そこには、あぶの群れがないようにする。それは主であるわたしが、その地の真中にいることを、あなたが知るためである。

8:23 わたしは、わたしの民とあなたの民との間を区別して、救いを置く。あす、このしるしが起こる。』」

8:24 主がそのようにされたので、おびただしいあぶの群れが、パロの家とその家臣の家とにはいつて来た。エジプトの全土にわたり、地はあぶの群れによって荒れ果てた。

ぶよは小さな虫ですが、刺されると痛くまた痒く、非常に厄介なものです。地のちりがぶよになるとすると、その数はおびただしいもので、おそらくエジプトの社会生活が成り立たなくほどのものだったと思われます。

豊穡の源である「地」からわきあがったことを思うと、エジプト人にとっては皮肉な出来事です。神をあがめないなら、豊かさを期待するものが厄難に変わるです。

呪法師たちはまたもトリックで、同じことをしようとしたが、そのような小さなものは仕込むことができなかったのでしょうか。不可能でした。ここで彼らは、モーセに表された力を恐れて、「神の指」と表現しましたが、パロはかたくなままでした。

そこで今度はあぶが満ちました。これは他にも訳が可能で、おそらくはエジプトが崇めていた、ある主の虫とも考えられます。これは生殖と繁殖のシンボルで、豊かさのために崇められていたものです。そのようなものも神に敵対するなら、「荒れ果て」するための厄難になるのです。

豊かさのために世人が崇めているものに惑わされることなく、本当の神様を信じて従いましょう。偶像のむなしさと害とを見抜いて、正しい判断をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

